

## 平成 23 年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 22 年 7 月 30 日

上場会社名 日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社 上場取引所 JQ  
 コード番号 4783 URL <http://www.ncd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤 敬夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営企画室長 (氏名) 松本 一明 (TEL)03(5437)1021  
 四半期報告書提出予定日 平成 22 年 8 月 13 日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成 23 年3月期第1四半期の連結業績(平成 22 年4月1日～平成 22 年6月 30 日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	2,538	△2.8	△198	—	△172	—	△117	—
22年3月期第1四半期	2,611	△6.4	△148	—	△135	—	△85	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	△13.41	—
22年3月期第1四半期	△9.78	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	8,555	2,632	30.8	301.82
22年3月期	8,965	2,813	31.4	322.58

(参考)自己資本 23年3月期第1四半期 2,632百万円 22年3月期 2,813百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
23年3月期	—				
23年3月期(予想)		6.50	—	6.50	13.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 無

### 3. 平成 23 年3月期の連結業績予想(平成 22 年4月1日～平成 23 年3月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,500	△3.2	△200	—	△150	—	△110	—	△12.61
通期	11,600	0.5	200	253.2	250	92.9	100	277.6	11.46

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 有

業績予想の修正については、本日(平成 22 年 7 月 30 日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

4. その他 (詳細は、【添付資料】P. 4「その他の情報」をご覧ください。)

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期1Q	8,800,000株	22年3月期	8,800,000株
② 期末自己株式数	23年3月期1Q	78,442株	22年3月期	78,398株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期1Q	8,721,564株	22年3月期1Q	8,721,602株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

- 平成22年5月14日に公表しました業績予想は、第2四半期累計期間を本資料において修正しております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1 . 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2 . その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3 . 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界経済の回復を背景とした輸出、生産の増加で緩やかな回復が続いたものの、全般的にはまだ厳しい状況が続きました。

当情報サービス産業におきましても、企業のIT投資が少しずつ増加している状況は感じられますが、実態としては厳しい状況のまま推移いたしました。

このような状況において、当社グループにおきましては、以下の施策を進めてまいりました。

- ① IT関連事業を統括する営業部を設置することでの営業力強化
- ② IT事業の技術基盤整備による生産性向上
- ③ パーキングシステム事業における、現事業の市場占有率向上と新事業への挑戦

このような施策を積極的に進めてまいりましたが、IT関連事業の新規案件受注までには時間がかかり、当面の業務量が不足したことで技術者の待機状態が多数発生いたしました。パーキングシステム事業においては、新事業の対応も含め営業力の強化や代理店との協力体制強化は進みましたが、予定通りの実績を上げるまでにはもう少し時間がかかるとおられます。

子会社の株式会社ゼクシスは、既存顧客のIT投資予算削減により新規案件の受注は苦戦し、継続案件である保守業務も規模が縮小され厳しい状況となりました。株式会社日本システムリサーチも、IT関連の要員派遣の需要が低迷する中で、一般派遣等にも営業範囲を広げましたが目立った成果を上げることができませんでした。

以上により、当第1四半期連結会計期間の売上高は2,538百万円(前年同期比2.8%減)、営業損失は198百万円(前年同期は営業損失148百万円)、経常損失は172百万円(前年同期は経常損失135百万円)、四半期純損失は117百万円(前年同期は四半期純損失85百万円)となりました。

セグメント別の概況につきましては、システム開発事業は、既存顧客のIT投資は少し増加傾向となり、保守業務での技術者ニーズは増えてきております。また、統括営業部による新規顧客獲得においては、クラウドEXPOへの出展やソリューションセミナー等を実施することで、新規顧客からの引き合いは増えておりますが成約までには至っておらず、当第1四半期においては待機技術者を十分に稼働させることができませんでした。これらにより、売上高1,137百万円(前年同期比11.8%減)、売上総利益54百万円(前年同期比50.2%減)となりました。

サポート&サービス事業は、運用管理での要員減少は最小限に抑えることができました。マネージドサービスセンター(MSC)(※1)においては、営業努力でいろいろ案件情報は増えておりますが、当第1四半期での受注に繋がるまでには至りませんでした。これらにより、売上高557百万円(前年同期比2.3%減)、売上総利益56百万円(前年同期比31.6%減)となりました。

## (※1) マネージドサービスセンター

このサービスは、お客様のシステム運用部門に代わり24時間365日障害対応やシステム運用・保守まで、お客様のITインフラ全体をサポートするものです。

パーキングシステム事業は、前期からの持ち越し案件等で当初順調にスタートを切りましたが、新規駐輪場の開設等にかかなりの時間がとられ、当第1四半期中盤以降新規案件の発掘が滞りました。新規事業としてのエコポート事業においても、今までの実験で培った経験を基にいろいろな提案を行っており、受注に向け着実に進展しておりますが、当第1四半期の収益には結びつくまでには至りませんでした。この結果、売上高825百万円(前年同期比12.9%増)、売上総利益99百万円(前年同期比7.8%減)となりました。













